

もり はじ きよてん 森林から創まる「ちくさの拠点」づくり

— みんなで進める地域の基地づくり —

10月3日に「第3回千種生活圏の拠点づくり検討委員会」が開催されました。今回から新しく2人の委員に参加していただきました。ご紹介させていただきます。

磯崎 伸彦 さん（千種高校PTA会長）

奥田 慎一 さん（千種町商店街連合会代表）

今後、15名の委員さんを中心にちくさの拠点施設について、いろいろな話し合いをお願いします。

今回は、事務局から、これまでの議論を体系別に整理して説明させていただいた後に宍粟市地区コミュニティ支援員の田住 学さんに千種まちづくり推進委員会の取り組みを説明していただきました。「たたらの里ちくさ」プロジェクトの概要の説明の後、拠点づくりの方向性についてもお話をいただきました。

簡単なフロー図にすると

生き甲斐・暮らし甲斐を育む拠点づくり

- ・ 点在している暮らしに必要な機能を集約し利便性を高める
- ・ 生き甲斐暮らし甲斐につながる各種活動交流の拠点とする。
- ・ 情報の発信・集約などネットワークの拠点とする。



10年後 20年後を見据えて

- ・ 望ましい拠点の規模・内容を考える。
（場所・建物の大きさ・必要な附属機能の検討）
（どんな機能やサービスが要るか。）
（地域住民がどのように関わっていくか。）
- ・ 予算措置（将来私たちに大きな負担にならないのか。）

田住支援員、貴重なお話ありがとうございました。

田住支援員のお話の後、小グループに分かれてもう一度話し合う予定でしたが、時間の関係上できませんでした。会議の進行の難しさを感じています。

次回は、ワークショップ形式でもう少し話し合っていきたいと思います。そろそろ方向性なども決めていく必要があります。

10月3日にセンターちくさで開催されました「第3回千種生活圏の拠点づくり検討委員会」での意見は、次のとおりです。

◎第3回で出た意見

- どのように地域を変えていくかという話だけではなく、変えなくてもいいことがあってもいいのではないか。
- エーガイヤちくさの居住機能を宿泊利用するなど、建物の維持費を賄っていくことを考えていく必要がある。
- 市の職員数や施設規模を確保していくために、若者が施設でこんな活動をするために、このスペースが必要だなど、具体的な活動内容を考えていく必要がある。
- 若い世代として、建物の話が先行して、人口減少が止まらないようなことにはしたくない。
- 市民局建替えの方向性やタイミングを間違えると将来に負担を残していくことになる。
- エーガイヤちくさに市民がコミュニケーションする場所や防災・避難所になる建物がまとまれば、コストが小さくなるのではないか。
- 少子化対策を進めていく上で、保育料の無償化や現在の不妊治療への支援を手厚くすることを考えてほしい。
- 平時から防災意識を高めていく必要がある。また、災害時に備えて備蓄されている物資にどのような物があるのかわからないので不安がある。
- 毎日使っていくことを想定して、身の丈にあった拠点づくりを進めていけばいい。

以上は第3回の委員会で出された意見の一部を抜粋し、要約したものです。
全体の会議録をご覧になりたい方は、穴栗市のホームページでご確認頂けます。

■ 千種生活圏の拠点づくりに関するお問合せ先

穴栗市役所企画総務部 地域創生課

電話：0790-63-3066

FAX：0790-63-3060

e-mail：chiikisosei-kk@city.shiso.lg.jp

千種市民局まちづくり推進課

電話：0790-76-2210

FAX：0790-76-8020

e-mail：ch-machizukurisuishin-kk@city.shiso.lg.jp

